

「まえがき」

「傷寒・金匱方劑解説」の「傷寒論」「金匱要略方論」中の方劑記載のある条文の解説においては、「傷寒論解説」「漢方医学 金匱要略方論」「方劑決定のコツ」における藤本 肇先生の解説をベースとして、さらに、理解を深め易くするために、下記に掲載した諸先生方の書籍、およびメーカー持参の漢方資料、および諸先生方の漢方講演会の内容を参考にしながら、数年をかけて、方劑毎に作成した自己作成資料なども含めてまとめ、解説を二重に重複させて掲載しております。また、「中医方劑解説」では、神戸中医学研究所編著の「中医臨床のための方劑学」の解説に、参考として、日本での保険適応効能・効果も掲載しております。また、生薬解説は、神戸中医学研究所編著の「中医臨床のための中薬学」の「中医生薬解説」と、「新古方薬囊」「方劑決定のコツ」をベースとした「中医以外の生薬解説」に分けて掲載しております。

以下に、主に参考にしました教材の書籍名と著作された先生方を列記しますと、

「傷寒・金匱要略解説」に関しては、

- 「傷寒論解説」 藤本肇先生著編
原文・読み 小川英子先生

- 「漢方医学 金匱要略方論」 藤本肇先生著編
原文・読み 小川英子先生
各 平成6年5月1日発行 発行所 (株) 祥文社

この書籍は、原文の読みと解説が、無理がなく直訳的で、しかも判りやすく主要参考としております。(原文の掲載は、省略しております。)

これらの本の終末に藤本肇先生もご指摘されておられます様に、一部の解釈を除いて本来の意味の解釈を書くとするれば、更に3~4倍の年月がかかると書かれています。

特に、当ウェブサイトの中の「傷寒・金匱方劑解説」では、上記の藤本肇先生著編の両刷本の読みと解説で理解しにくい場合は、下記の教本を参考にしています。

- 「方劑決定のコツ」
藤本 肇先生ご誕生80年記念出版
発行者 社団法人 日本薬局協励会 長野支部
平成16年9月9日 印刷・製本 (株) 祥文社

この書籍は、藤本 肇先生が、昭和54年から昭和64年に亘り、薬局協励会機関誌に「方劑決定のコツ」と題して、1ヶ月おきに掲載されたものを、社団法人 日本協励会 長野支部の大井 正光先生ほか、ご熱心な先生方が中心となられて、藤本 肇先生がご逝去され3年の歳月が流れ、ご在世ならば、ご誕生80年になられるのを記念して、1冊の書物にまとめられたものです。

藤本 肇先生は、荒木 性次先生と師弟の関係で学び、傷寒論「金匱要略」を紐解き、特に方劑解説では、構成生薬の薬味・薬能に精通された藤本肇先生ならではの舌を巻く様な納得できる解説がなされています。

- 「図説 傷寒論」 白石佳正先生著編
1993年12月15日 第2刷発行 発行所 谷口書店

白石佳正先生は、出版の理由を、「傷寒論を中医学理論で見ると、従来の説明よりも論理的、具体的で理解し易い事を知ったので、中医学を使って傷寒論の理解を深めると共に、中医学の理解をも兼ねて、日本の東洋医学の更なる進展を願ったからである」と記され、図表を用いて非常に明解に解説されておられます。

一方、「金匱要略」解説に関しては、より解釈の理解を深めるために、主に下記の教本を参考にしました。

- 「新編金匱要略解説」 解説者 小曾戸丈夫先生著編
発行 漢方と水と健康社
発売 漢方の友社

小曾戸丈夫先生は、長年に亘る東洋医学への憧憬の深さに起因され、東洋医学を学ぶ前に、原文の語学とその歴史的時代の背景を熟知され、一つ一つの漢字が持つ本来の意味に、東洋哲学を照射して理解する、この難解な作業を介して、古医書を訳されています。この小曾戸丈夫先生著編の「新編金匱要略解説」では、不可解な古代漢字が快刀乱麻の如く謎解きされて、現代日本語に生まれ変わる様な気がします。

また、「傷寒・金匱方劑解説」には、藤本肇先生著編の「傷寒論解説」「漢方医学 金匱要略方論」にも紹介されております、荒木性次先生著編の「新古方薬囊」の解釈を転載し、方劑解釈の一役としております。

- 「新古方薬囊」 荒木性次先生著編
平成6年12月31日 第6刷発行
発行者 方術信和會
発行所 大日本印刷株式会社

「中医方劑解説」に関しては、

下記の教本の大部分を転載しました。

- 「中医臨床のための方劑学」 神戸中医学研究所編著
1992年9月10日 第2刷発行
発売所 医歯薬出版(株)
現在の発行所は、東洋学術出版社

この編集本に関与された16名の神戸中医学研究会有志の先生方が紹介されています。この編集本は、解説が「主治」「病機」「方意」「参考」に分けられています。

「主治」は、その方劑が適用する病態(証)あるいは病名を提示された上で、主な症候、脈象、舌象を羅列し、「病機」は、「主治」に示された病態、病名、症候、脈象、舌象に対し、病因、経過、病性、病位、病勢など病変の本質から分析して説明を加えられています。「方意」は、方劑を構成する薬物の薬効とその組み合わせを分析し、方劑全体の構成意図と効能を明らかにして病機との対応が示されています。「参考」は、原典における記載と、必要な解説、加減法および名称の由来、他方劑との比較、禁忌、注意などが述べられています。

更に、理解を深めるために下記の書籍の記載内容から、ごく一部抜粋引用して追加記載することも試みました。

- 「中医処方解説」 神戸中医学研究所編著
1988年3月1日 第5刷発行 発行所
発行所 医歯薬出版(株)
現在の発行所は、東洋学術出版社

「生薬」解説は、

生薬解説は、「中医生薬解説」と「中医以外の生薬解説」に分けて掲載しています。

「中医生薬解説」に関しては、

下記の教本を参考にしました。

- 「中医臨床のための中薬学」 神戸中医学研究所編著
1997年12月20日 第1版第5刷発行
発行所 医歯薬出版(株)
現在の発行所は、東洋学術出版社

「中医以外の生薬解説」に関しては、

下記の教本を参考にしました。

- 「新古方薬囊」 荒木性次先生著編
平成6年12月31日 第6刷発行
発行者 方術信和會
発行所 大日本印刷株式会社

- 「方劑決定のコツ」
藤本 肇先生ご誕生80年記念出版
発行者 社団法人 日本薬局協励会 長野支部
平成16年9月9日 印刷・製本 (株) 祥文社

一部の難漢字については、下記のものをご参考にしております。

- 「新・東洋医学辞書 V10」
2011年2月26日 発売
発売元 有限会社オフィス・トゥエンティワン
TEL ; 045-212-5721 / FAX ; 045-212-5729
ホームページ <http://www.office21c.co.jp>

当ウェブサイトに記載されている内容（コンテンツ）の著作権は、殆どが上記の諸著作者の先生方に帰属します。
当ウェブサイトの内容は、予めセキュリティ対策を施していますので、コピー、印刷、および編集は出来なくしてありますが、著作権法で定められた「私的使用のための複製、および引用」以外の目的で利用する場合は、上記の諸著作者の先生方の使用許諾が必要です。
コンテンツのご利用を希望されます場合は、予め、各著作物の各発行所にお問い合わせ下さい。

製作者 たかやま健生堂薬局 薬剤師 高山 貞夫